# 香港言語学会の《粤語拼音方案》について

池田　巧
山梨県立女子短期大学　国際教養科

An Introduction to the LSHK Cantonese Romanization Scheme (Jyutping)

Takumi IKEDA
*Yamanashi Women's Junior College*
*Department of International Studies*

This paper will show the outline of a new Cantonese romanization scheme designed by the Linguistic Society of Hong Kong, 1993. There are many romanization systems of Cantonese in the world, but there is no national standard system now. LSHK's new scheme aims to correct the inconsistencies, and to be a useful standard system for infomation technology, education, linguistic studies, etc. One of the most remarkable features of this scheme is it uses the Roman alphabet without using any diacritical marks because they want to use this scheme on a computer. Therefore the letters available are limited to the standard ASCII codes.

In Japan, there is another useful Cantonese romanization scheme for Japanese sutdents. This system, which was designed by Professor Chishima Eiichi at Reitaku University as a learning aid, is being used on Chinese radio programs broadcasted by NHK. In this paper I have tried to make clear the differences between these two romanization systems by comparing their merits for the users.

**keywords:** Cantonese（広東語）， Romanization（ローマ字表記），
LINGUISTIC SOCIETY OF HONGKONG（香港言語学会）

## 1　はじめに

1994 年 7 月に香港理工学院で開催された第 3 回国際中国言語学会に参加した際，学会の会場にて「香港言語学会[1]」という組織の存在を知った。同会では香港における言語学研究の成果をまとめた何冊かの論文集[2]と粤方言の詳細な論著目録[3]を発行しているばかりでなく，新たな標準広東語のローマ字表記法を考案・制定して，1993 年 12 月付けで正式に発表しているとのことであった。

**《粤語拼音方案》** The LSHK Cantonse Romanization Scheme (Jyutping) と名付けられたそのローマ字表記法については，その制定の意図や表記原則の詳細な解説に，8176 の中国語の常用漢字のローマ字表記の実例を附した小冊子が同学会から発行されていた。しかし日本では寡聞にして香港でこのような動向があるということはほとんど知られておらず，恐らくきちんとした形での紹介もまだなされていないことと思う。そこで本稿ではこの《粤語拼音方案》[4]について，その特色を詳しく紹介するとともに，これまでに使われてきた代表的なローマ字表記法との比較を行い，なかでも日本の広東

語教育において普及しつつある「千島式ローマ字表記」との違いを明かにし，今後の日本における広東語の教育と研究に幾分かの便宜を提供できればと考える。同時に，同方案の音韻解釈のしかたとそれに付随して生じるいくつかの問題点についても指摘しておきたいと思う。

## 2.　《粤語拼音方案》制定までの経緯

広東語は中国語の一方言と位置付けられるが，中国国内の広東省はもとより東南アジアをはじめとする国外の華僑の間でも広く使用されている有力な言語であって，話し手の人口は約5千万人と推定されている。歴史的にも社会的にも重要な地位を占める言語であり，その国際性も高いことから，今日までさまざまなローマ字表記法が考案されて使われてきている。北京語を基礎とする中国の標準語（普通話）が，国家が認めた公式のローマ字表記法（漢語拼音方案）を持つのとは異なり，広東語には公認のスタンダードなローマ字表記法はない。現行のいくつかのローマ字表記法はいずれも一長一短があって，社会的な要求によってさまざまな使われ方をしているのが実情である。しかしこの不統一のために教育現場での混乱を招いたり，情報処理などの現代的要求に対応するのが難しいという弊害も指摘されてきた。

そこで香港言語学会では広東語のローマ字表記法の不統一の問題を重点課題として，1992年9月5日に“粤語拼音系統研討會”（広東語表音システム研究会）を開催した。参加者は50人あまりで，報告は11篇あり，そのうちの9篇は論文として会議後に編集された《九二粤語拼音系統研討會論文集》（「'92広東語表音システム研究討論会論文集」）に収録されているとのことである（未見）。この研究会の席上，同学会で専門の小委員会を組織して，広東語表音規則を制定すべきであるとの提案がなされ，“粤語拼音方案工作組”（「広東語表音規則プロジェクトチーム」）が発足した。メンバーの専門は多岐にわたり，理論言語学を始めとして，社会言語学，応用言語学，英語教育，広東語教育，翻訳教育などであり，所属も香港の各大学や研究機関で英語学，中国語学，人類学，言語療法などの幅広い分野で活躍する専門家が参加した。このプロジェクトチームによる草案は，

香港語言學學會　　“粤語拼音方案《粤拼》”　　1993年12月
The Linguistic Society of Hong Kong
" The LSHK Cantonese Romanization Scheme (Jyutping) "　December, 1993

という小冊子にまとめられて正式に発表された。以下，この香港言語学会の提案する広東語ローマ字表記法をJyutpingと略称する[5]ことにしたい。

その後，1994年7月30日には広州の中山大学で“粤語拼音方案專題研討會”（広東語表音規則専門研究会）が中国国内および香港の専門家を招いて開催され，Jyutpingも草案のひとつとして提出された。この討論会についての報告[6]によれば，標準語のローマ字表記法を規範とすべきであるという立場をとる中国側の学者の数々の遵守すべき「原則」提案にも負けず，Jyutpingは，広東語は標準語とは異なる音韻体系をもつのだから，標準語のローマ字表記法に束縛されることなく，その体系にもっともふさわしい表記法をとるべきであると主張して，果敢に健闘した様子が伺える。1997年の香港の中国返還を目前に控え，中国側の価値観によってすべてが決められてしまう前に，自分たちの言語を自分たちが納得のいく形で表記したいという香港の研究者の思いが感じられるのは私だけであろうか。

同学会の*NEWSLETTER* No.17 December 1994には，この中山大学での研究会についての報告のほか，「香港言語学会『粤語拼音方案』の制定の経緯，設計原則とその特長」と題された解説の増補改訂版[7]と問答形式による設計原則とその考え方についての詳細な説明文[8]も収録され，香港言語学会の会員に配布された。以下本稿での引用は特に断わらない限りすべてこの改訂版に依るものである。

## 3. 広東語の音韻体系

ローマ字表記法についての検討に入る前に，現代標準広東語の音声体系を IPA による精密表記で示しておく。この音価は Hashimoto (1972) の記述に依っている。また，音の分類は便宜上千島英一氏の編集した一連の教材での体裁に倣って配列した。右側の括弧内には音声学での分類を示してある。

### 3.1 声 母 (Initials)

| 発音方式 | 破裂音 | | 破擦音 | | 鼻 | 辺 | 摩擦 | 半母 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 発音部位 | 無気 | 有気 | 無気 | 有気 | 音 | 音 | 音 | 音 | |
| 両唇音 | p | p‘ | | | m | | | | (両唇音) |
| 唇歯音 | | | | | | | f | | (唇歯音) |
| 舌尖音 | t | t‘ | | | n | l | | | (歯 音) |
| 舌尖音 | | | { ts | { ts‘ | | | { s | | (歯茎音) |
| 舌面音 | | | tʃ | tʃ‘ | | | ʃ | | (硬口蓋歯茎音) |
| 舌面前音 | | | | | | | | j | (硬口蓋音) |
| 舌根音 | k | k‘ | | | ŋ | | | | (軟口蓋音) |
| 円唇舌根音 | kw | k‘w | | | | | | w | (唇軟口蓋音) |
| 喉 音 | | | | | | | h | | (声門音) |

### 3.2 韻 母 (Finals)

| | 長 | 短 | 長 | 短 | 長 | 短 | 長 | 短 | 長 | 短 | 長 | 短 | 長 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 単韻母 | ɐː | | ɛː | | œː | | ɔː | | iː | | uː | | yː |
| 複韻母 | ɐːi | ɐi | | ei | | øy | ɔːi | | | | uːi | | |
| | ɐːu | ɐu | | | | | | ou | iːu | | | | |
| | ɐːm | ɐm | | | | | | | iːm | | | | |
| 鼻韻母 | ɐːn | ɐn | | | | øn | ɔːn | | iːn | | uːn | | yːn |
| | ɐːŋ | ɐŋ | ɛːŋ | | œːŋ | | ɔːŋ | | | ɪŋ | | ʊŋ | |
| | ɐːp | ɐp | | | | | | | iːp | | | | |
| 塞韻母 | ɐːt | ɐt | | | | øt | ɔːt | | iːt | | uːt | | yːt |
| | ɐːk | ɐk | ɛːk | | œːk | | ɔːk | | | ɪk | | ʊk | |
| 鼻 韻 | | | | | m | | ŋ | | | | | | |

### 3.3 母音舌位 (Vowels)

| | 前 (平唇) | 前 (円唇) | 中 | 後 |
|---|---|---|---|---|
| 高 | iː | yː | | uː |
| | I | | | U |
| 中 | e | ø | | o |
| | ɛː | œː | ɐ | ɔː |
| 低 | | | Aː | |

### 3.4 声 調 (Tones)

| | 下降 | 上昇 | 平板 | 促音 |
|---|---|---|---|---|
| 高 | [55/53][9] (陰平) 1 | [35] (陰上) 2 | | [5] (陰入) 1 |
| 中 | | | [33] (陰去) 3 | [3/33] (中入) 3 |
| 低 | [21] (陽平) 4 | [13] (陽上) 5 | [22] (陽去) 6 | [2] (陽入) 6 |

### 3.5 広東語音韻論の焦点と【国際音標式】表記法

標準広東語の音声体系には，次のような分布上の特色がある。

(1) 広東語には韻母に介音 [ -i- ] は無く，介音 [ -u̯- ] は軟口蓋音声母 [ k-, k'- ] にのみ伴われて現われるため，これを / kw-, k'w- / と解釈することで音節構造を簡素化できる。これまでに設計されたローマ字表記法の主なものは，すべてこの解釈に従っている。

(2) 単韻母はすべて長母音である。

(3) 主母音 [ yː ] のグループに短母音はない。

(4) 韻母の長短は，主母音 [ Aː ] と [ ɐ ] の系列が対立している以外は，相補分布をなす[10]。

(5) 母音韻尾には [ -i ] [ -u ] [ -y ] の三種類の音声形式があるが，そのうち [ -y ] は，韻母 [ -øy ] にのみ現われる。

辻伸久氏が，「広東語音韻論の1つの焦点は，このあきまをいかにして埋め，母音音素にまとめるかであり，その解釈に関して，研究者間の考えも大きく分かれている。」と指摘しているように[11]，ローマ字表記法が種々存在するのも，まさしくこの点に関する解釈の違いを反映した結果である。

音韻論的解釈を最低限に止め，音声の実際にできるだけ近く表記するという立場に立って，このIPA による記述の簡略表記を採用したものとしては，曾 (1982) に代表される語彙集や字典がある。本稿ではこれらを一括して【国際音標式】と呼んでおく。簡略化の原則は次のとおり。

(1) 声母は無気音の系列 [ p t k kw ] をそれぞれ b d g gw で，また有気音の系列 [ p' t' k' k'w ] をそれぞれ p t k kw で表記する。

(2) 声母の [ ts ~ tʃ , ts' ~ tʃ', s ~ ʃ ] の自由変異はそれぞれ dz ts s に統一して表記する。なお，この表記法についての古典的研究書である黄 (1941) では，普通話の反舌音の系列 zh ch sh に対応

する音を $dz_2$ $ts_2$ $s_2$ と区別して表記し，広東語の話者が標準語を学ぶ場合の便宜に供しているが，広東語の実際の発音にこの二系列の音声に対応する区別があるわけではないので，その後発行された主な【国際音標式】を採用する辞書や教材にはほとんど踏襲されなかったようである。

(3) 主母音は対立する [ ɑː ] と [ ɐ ] を a と ɐ で表記し分けるほか，相補分布をなす長短母音でまとめられるものはできるだけまとめて，[ εː ] → ε，[ œː / ø ] → œ，[ ɔː ] → ɔ，[ iː / ɪ ] → i，[ uː / ʊ ] → u，[ yː ] → y とする。

(4) 声調は黄 (1941) では入声を独立させ，音節の前に 9 声調の高低を示す直視記号に似た記号を付けるが，繁雑なためか，これも今日発行されている主要な【国際音標式】の辞書や教材にはほとんど踏襲されていない。ここ10年来の動向としては，声調は 6 調類にまとめ，各音節の最後に調類の数字のみを打つのが主流となってきている。

### 3.6 【国際音標式】の利点と問題点

まず，利点としては表記に使われる記号と実際の音声とがほぼ 1 対 1 に対応していることが挙げられよう。しかしその反面，簡略表記とはいえ，【国際音標式】では一般に用いられるアルファベット以外の記号を多用するため，音声学のトレーニングを受けて IPA に習熟した人でなければ，記号とその差し示す音価をすぐには把握しにくい。つぎに低母音以外の対立をなさない長短主母音を，相補分布にもとづき同じ記号で表記してコンパクトにまとめてはいるが，短母音韻母の ei と ou だけがその操作から除外されている。これはおそらく出現頻度の高い長（広）母音側に記号を統一したため，いかに相補分布をなすとはいえ，短母音の e と o を広母音の記号 ε と ɔ にまとめて表記してしまうのには抵抗があったからであろう。しかしこの不統一によって結果的に実際の発音に近く表記し分けられたので，逆に直観的にはわかりやすいとも言える。また，現代的な要求事項のひとつとして，母音記号の ɐ ε œ ɔ はいずれもアルファベット 26 文字の範囲外の記号[12]なので，コンピュータによる文書の処理を考えた場合には，キーボードからの入力や印刷に不便があることなどが挙げられよう。

## 4 《粤語拼音方案》(Jyutping)

### 4.1 Jyutping 声母 (Initials)

| 発音方式 | 破裂音 | | 破擦音 | | 鼻音 | 辺音 | 摩擦音 | 半母音 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 発音部位 | 無気 | 有気 | 無気 | 有気 | | | | | |
| 両唇音 | b | p | | | m | | | | (両唇音) |
| 唇歯音 | | | | | | | f | | (唇歯音) |
| 舌尖音 | d | t | | | n | l | | | (歯　音) |
| 舌尖音 | | | z | c | | | s | | (歯茎音) |
| 舌面音 | | | z | c | | | s | | (硬口蓋歯茎音) |
| 舌面前音 | | | | | | | | j | (硬口蓋音) |
| 舌根音 | g | k | | | ng | | | | (軟口蓋音) |
| 円唇舌根音 | gw | kw | | | | | | w | (唇軟口蓋音) |
| 喉　音 | | | | | | | h | | (声門音) |

### 4.2 Jyutping 韻母 (Finals)

| | 長 | 短 | 長 | 短 | 長 | 短 | 長 | 短 | 長 | 短 | 長 | 短 | 長 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 単韻母 | aa | | e | | oe | | o | | i | | u | | yu |
| 複韻母 | aai | ai | | ei | | eoi | oi | | | | ui | | |
| | aau | au | eu | | | | | ou | iu | | | | |
| | aam | am | em | | | | | om | im | | | | |
| 鼻韻母 | aan | an | en | | | eon | on | | in | | un | | yun |
| | aang | ang | eng | | oeng | | ong | | | ing | | ung | |
| | aap | ap | ep | | | | | op | ip | | | | |
| 塞韻母 | aat | at | et | | oet | eot | ot | | it | | ut | | yut |
| | aak | ak | ek | | oek | | ok | | | ik | | uk | |
| 鼻 韻 | | | | | m | | ng | | | | | | |

＊ ◯ 印は香港言語学会が存在を認める韻母。

### 4.3 Jyutping 母音舌位 (Vowels)

| | 前 (平唇) | 前 (円唇) | 中 | 後 |
|---|---|---|---|---|
| 高 | i | yu | | u |
| 中 | e | eo | | o |
| | | oe | a | |
| 低 | | | aa | |

### 4.4 Jyutping 声調 (Tones)

| | 下降 | 上昇 | 平板 | 促音 |
|---|---|---|---|---|
| 高 | 1 (陰平) [55/53] | 2 (陰上) [35] | | 1 (陰入) [5] |
| 中 | | | 3 (陰去) [33] | 3 (中入) [3/33] |
| 低 | 4 (陽平) [21] | 5 (陽上) [13] | 6 (陽去) [22] | 6 (陽入) [2] |

### 4.5 Jyutpingの特徴

Jyutpingの特徴は次のようにまとめられている[13]。

(1) 声母に関しては，n- / l- は区別し，ng- / ゼロ- についても区別をして，これらを併せることはしない。
(2) 主母音に関しては，低母音は長 (aa) と短 (a) に分け，中母音の前舌円唇母音も長 (oe) と短 (eo) に分ける。それに対して，［高母音では］短母音の［ɪ］と［ʊ］は，舌根韻尾 -ng / -k の前では慣用に従い，それぞれを相補関係にある［iː］と［uː］とともにまとめる[14]。したがって，これに該当する韻母はそれぞれ -ing -ik， -ung -uk と書く。
(3) 韻尾に関しては，［-y］は［-i］に併せ，すべてiで表記する。
(4) 声調に関しては，「入声」は独立させず，陰平も二つに分けず[15]，全部で6声調にまとめる。

以下これらの諸点について検討する。
(1) 広東語のネイティブスピーカーの発音では，声母の n- / l- の区別を失い，ng- も脱落してゼロ声母に合流してしまっている者も多い。香港の若い世代の間などでよく聞かれる例では，

你 ［nei$^{13}$］～［lei$^{13}$］　　屋 ［ŋuk$^{5}$］～［uk$^{5}$］

などがある。しかし広東語のすべての話し手においてこの区別が失われているわけではなく，標準とされる中国広州市の発音と英領香港での発音，話し手の世代によっても声母の合流状況にはかなりの違いが見られるので，主要なローマ字表記法ではすべてこの区別を残しており， Jyutping もそれを踏襲している。
(2) 母音を如何に解釈して音素レベルでの帰属を定め，それをどう整理するかが，広東語のローマ字表記の体系を定める上での最大の焦点であるが， Jyutping はこの点で低母音の対立を長 (aa) ：短 (a) と解釈して分けたのに合わせ，中母音の前舌円唇母音をも長 (oe) ：短 (eo) に分ける措置を取ったことが注目される[16]。これは上述の Hashimoto (1972) をはじめとして，従来は低母音韻母の長短対立を除けば，中・高母音韻母は相補分布をなすと記述されてきたけれども，香港言語学会のプロジェクトチームでは，「方案の基礎となる音声体系には，文字によって書き表せない音節や比較的よく見られる音声変異を含むものとする」という指導原則を立て，従来見過ごされてきたつぎの8韻の存在を認めるべきであるとした[17]。

| IPA | | Jyutping | |
|---|---|---|---|
| ɛːu | | eu | |
| ɛːm | ɛːp | em | ep |
| ɛːn | ɛːt | en | et |
| om | op | om | op |
| œːt | ( ≠ øt ) | oet | ( ≠ eot ) |

これによりローマ字表記の記号の選び方には重要な影響が生ずる。これまでしばしば［œː］の表記に eu が使われてきたのは，音節［ɛːu］が存在しないことを前提とした処理であった。 また，［œː］と［ø］の分合の問題では，特定の条件下で韻尾［-ŋ / -k］を［-n / -t］に発音する話し手が存在し，その人たちは［œŋ / k］を［œn / t］と発音することから，［øn / t］と対立する長母音韻母が構成されるという事実などによるもの[18]で，文字では表記できない（字音としては存在しない）音声変異にも充分な注意を払った表記法を採用したと言える。声母の表記において見られた「区別されるものは表記し分ける」という立場をここでも徹底しているのは評価すべきであろう。
(3) 韻尾に関しては， Jyutping では［-y］は［-i］に併せ，母音韻尾を統一的に表記するという処理

をしている。韻尾の [ -y ] は，分布のうえからは / -i / の位置を占めるものとも / -u / の位置を占めるものともいずれの解釈も可能であり，Jyutping は前者の解釈を取る。この処理にしたがえば，主母音 eo に接続する韻尾 i は [-y] であると規定できる。しかし音韻論的解釈としてはいいとしても，この音節の韻尾のみ表記と実際の音声との間にずれが出て，音価の読み換えをしなければならず，直観的に把握しにくいという問題も指摘されよう。他のローマ字表記法でもこの韻尾を i で表記するものが多いが，後述する【千島式】はこの韻母を実際の音声に近く -öü と表記して，学習者の便を考慮している。また，【廣州話拼音方案】がこの韻母の韻尾を u で表記しているのは，標準語との対応を重視する立場からの処理であろう。この韻母はローマ字表記法のばらつきが最も大きいところである。

| 例字 | 国際音標式 | Yùtping | 千島式 | Yale 式 | 劉氏式 | 廣州話拼音方案 | 安託集團 AtoZ Lab. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 去 | œy | eoi | öü | eui | ui | êu | euy |

(4) 声調に関して Jyutping は，「入声」は独立させずに調値の等しい舒声に分属させ，また陰平も二つに分けず，全部で 6 声調にまとめたうえで，その表記には diaclitical marks は使用せず，各音節の後に数字で調類を表記する。この処理は【廣州話拼音方案】に同じである。各調類の数字の示す実際の調値をそれぞれ覚えなければならないが，9 声とする表記では，学習者にとっては記憶の負担が大きいと感じられるのに対し，6 種類なら混乱が生じることは少ないと言える。また，曾 (1982) もやはり 6 声調とする表記法をとっているが，「超陰平調」と呼ばれる，変調によって生ずる高平調については，特に陰平を示す数字 1 のあとに - (ハイフン) を加えて表記し分ける点が異なっている。

## 5　千島式表記法

千島式表記法は麗澤大学の千島英一教授の草案になる広東語のローマ字表記法で，日本人学習者の学びやすさを第一に考えて設計されており，同教授の執筆になる入門書において使われている。また，NHK のラジオ中国語講座の応用編で広東語講座を担当された[19]ことから，日本国内の広東語学習者の間で広く知られるようになった。以下，千島式の特徴について見ておきたい。

### 5.1　千島式　声母 (Initials)

| 発音方式 | 破裂音 | | 破擦音 | | 鼻 | 辺 | 摩擦 | 半母 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 無気 | 有気 | 無気 | 有気 | 音 | 音 | 音 | 音 | |
| 発音部位 | | | | | | | | | |
| 両唇音 | b | p | | | m | | | | (両唇音) |
| 唇歯音 | | | | | | | f | | (唇歯音) |
| 舌尖音 | d | t | | | n | l | | | (歯　音) |
| 舌尖音 | | | zh | ch | | | s | | (歯茎音) |
| 舌面音 | | | zh | ch | | | s | | (硬口蓋歯茎音) |
| 舌面前音 | | | | | | | | y | (硬口蓋音) |
| 舌根音 | g | k | | | ng | | | | (軟口蓋音) |
| 円唇舌根音 | gw | kw | | | | | | w | (唇軟口蓋音) |
| 喉　音 | | | | | | | h | | (声門音) |

### 5.2 千島式 韻母 (Finals)

| | 長 | 短 | 長 | 短 | 長 | 短 | 長 | 短 | 長 | 短 | 長 | 短 | 長 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 単韻母 | ā | | e | | ö | | o | | i | | u | | ü |
| 複韻母 | āi | ai | | ei | | | oi | | | | ui | | |
| | āu | au | | | | öü | | ou | iu | | | | |
| | ām | am | | | | | | | im | | | | |
| 鼻韻母 | ān | an | | | | ön | on | | in | | un | | ün |
| | āng | ang | eng | | öng | | ong | | | ing | | ung | |
| | āp | ap | | | | | | | ip | | | | |
| 塞韻母 | āt | at | | | | öt | ot | | it | | ut | | üt |
| | āk | ak | ek | | ök | | ok | | | ik | | uk | |
| 鼻 韻 | | | | | m | | ng | | | | | | |

### 5.3 千島式 母音舌位 (Vowels)

| | 前 (平唇) | 前 (円唇) | 中 | 後 |
|---|---|---|---|---|
| 高 | i | ü | | u |
| 中 | e | ö | | o |
| 低 | | | a<br>ā | |

### 5.4 千島式 声調 (Tones)

| | 下降 | 上昇 | 平板 | 促音 |
|---|---|---|---|---|
| 高 | 1（陰平）<br>[ 55 / 53 ] | 2（陰上）<br>[ 35 ] | | 1（陰入）<br>[ 5 ] |
| 中 | | | 3（陰去）<br>[ 33 ] | 3（中入）<br>[ 33 / 3 ] |
| 低 | 4（陽平）<br>[ 21 ] | 5（陽上）<br>[ 13 ] | 6（陽去）<br>[ 22 ] | 6（陽入）<br>[ 2 ] |

声母については，千島式では歯茎音の系列を zh ch s とする。Jyutping と【廣州話拼音方案】がそれぞれ z c s としているのと比較して，破擦音にわざわざ h を付しているのは，日本人学習者の場合，単独の c を [ ts ~ tʃ ] に読む表記法では間違いを犯しやすいことを考慮して，英語などからの類推が利きやすいように処置した結果であろう。確かに，chung[4] 【重】という音節などでは，h を外して cung と表記すると，[ k'uŋ ] と読んでしまいかねない。同時に摩擦音には h を加えず単独の s で表記しているのも，高舌母音の後続する音節 si などでは，音声としての実現形は [ si ~ ʃi ] の自由変異なので，shi と表記してもよさそうであるが，低舌母音の後続する sau [ sɐu ] や sou [ sou ] などの音節では，声母は口蓋化しないので，これを shau shou などと表記すると，英語や標準語の拼音からの類推で口蓋音に読んでしまう可能性が高くなることを配慮したものである。

また，半母音の [ j- ] は y- で表記する。千島式の場合，y は母音の表記には使わないので，問題の生じる恐れはない。

つぎに韻母では，ā ü ö などの diacritical marks の付いた母音記号を使用していることが注目される。長母音も短母音も一母音につき一記号を割り当て，一母音音素を表記するのに二つ以上の母音記号の組み合わせを用いることを極力避けるという原則が見て取れる。韻母 ik と ing の母音が広めの短母音であることにさえ注意して，あとはローマ字にしたがって素直に読めば，実際の音価に近い音が発音できるので，学習者は広東語の音声を直観的に把握できる。さきの例で，音節 [ -œy ] を -öü で表記していることからもわかるように，音韻論的な解釈を徹底していない分だけ，読み換えをしなくてよいという利点があり，教育用のローマ字表記として優れたものであると言うことができよう[20]。

反面，ā ü ö などの diacritical marks の付いた母音記号を使用していることは，コンピュータ上で扱う場合には問題が多い。これらの記号は標準 ASCII コードには含まれてはおらず，拡張部分に登録されている記号である。したがって，各国のスクリプトごとに独自の文字と記号が定義されているエリアにあるため，たとえば欧文フォントでは ü や ö の登録されているエリアには，日本語のフォントセットではなにも定義されていないので，直接変換しようものならすべて空白となってしまう。また，意外に思われるかも知れないが，ā という組み合わせに至っては一般に欧文の拡張 ASCII コードにも定義されていない記号なので，異機種間での直接の情報交換は不可能である。

## 6　総　論

以上検討してきた全体をまとめてみるならば，香港語言學學會の Jyutping は，変化を引き起こす構造的要因を内包した音韻体系を動的な構造体としてとらえ，変化の萌芽的存在である音声変異もその体系のなかに含めて考え，それが将来，体系の構造を担う音素として定着した場合をも想定している点で，非常に周到に設計された表記法だという印象を持つ。しかも使用する記号の選定において，コンピュータ時代の現代的な要求にも充分応え得る配慮がなされていることは画期的である。もとよりあるひとつの言語または方言の音韻論的解釈は唯一に定まるものではないということは，構造主義言語学の基本的な問題としてつとに指摘されてきたとおりであって，それを限られた記号を用いて如何に効率よく，しかもわかりやすく表記するかという課題に対するひとつのすぐれた成果であると言うことができよう。今後は情報機器を利用した実際のさまざまな場面での幅広い用途への対応が期待できる。

一方，千島式のローマ字表記は，diacritical marks の付いた母音記号を使用しているため，コンピュータ上で扱うには ASCII コードの拡張部分を使用せざるを得ず，ファイルの互換性には問題が出てくることと，英文用の標準キーボードからの入力が簡単ではないという不都合がある。しかしな

がら，一音素に対してできる限り一記号が対応するように記号の使い方には工夫がこらされ，声調の数字以外には，音価を読み替える必要がないので，広東語の学習者にとっては最も直観的に学びやすい表記体系であることが特長である。教育の現場で非常に有用であることは言を待たないであろう。

幸いにして Jyutping と千島式とでは，いくつかの音節の扱いにおいてその音韻解釈と表記法が異なるけれども，共通する考え方も多いので，両者の間で異なる記号の対応関係さえ把握すれば，どちらに習熟したものでも相互理解はやさしい。 ゆえに Jyutping で記述された文書ファイルをコンピュータ上で千島式に変換するなどの作業は（その逆も），さして難しいことではない。

以下にその変換表を示しておく。

| | Jytping | 千島式 |
|---|---|---|
| 声母： | z- | zh- |
| | c- | ch- |
| | j- | y- |
| 韻腹： | -aa- | -ā- |
| 韻母： | -aa | -a |
| | -yu | -ü |
| | (長) -oe -oek -oeng | -ö -ök -öng |
| | (短) -eot -eon -eoi | -öt -ön -öü |

ただし，現在の口語に見られる音声変異が，将来広東語の構造体系を担う音素として定着した時には，千島式においても中舌位の前舌円唇母音を主母音とする韻母に長短の区別を設ける必要が出てくることになるだろう。

## 主要な広東語ローマ字表音法の対照表[21]

### 1 声 母 (Initials)

| 例字 | 国際音標式 | Yutping | 千島式 | Yale 式 | 劉氏式 | 廣州話拼音方案 | 安託集團 AtoZ Lab. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 爸 | b | b | b | b | b | b | b |
| 怕 | p | p | p | p | p | p | p |
| 媽 | m | m | m | m | m | m | m |
| 花 | f | f | f | f | f | f | f |
| 打 | d | d | d | d | d | d | d |
| 他 | t | t | t | t | t | t | t |
| 那 | n | n | n | n | n | n | n |
| 啦 | l | l | l | l | l | l | l |
| 渣 | dz | z | zh | j | j | z / j | j |
| 叉 | ts | c | ch | ch | j | c / q | c |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 沙 | s | s | s | s | s | s / x | s |
| 加 | g | g | g | g | g | g | g |
| 卡 | k | k | k | k | k | k | k |
| 瓜 | gw | gw | gw | gw | gw | gu | gw |
| 跨 | kw | kw | kw | kw | kw | ku | kw |
| 牙 | N | ng | ng | ng | ng | ng | ng |
| 哈 | h | h | h | h | h | h | h |
| 也 | j | j | y | y | y | y | y |
| 蛙 | w | w | w | w | w | w | w |

## 2 韻 母 (Finals)

| 例字 | 国際音標式 | Yutping | 千島式 | Yale 式 | 劉氏式 | 廣州話拼音方案 | 安託集團 AtoZ Lab. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 阿 | a | aa | a | a | a | a | a |
| 街 | ai | aai | āi | aai | aai | ai | aai |
| 拗 | au | aau | āu | aau | aau | ao | aau |
| 監 | am | aam | ām | aam | aam | am | aam |
| 間 | an | aan | ān | aan | aan | an | aan |
| 耕 | ang | aang | āng | aang | aang | ang | aang |
| 鴨 | ap | aap | āp | aap | aap | ab | aap |
| 壓 | at | aat | āt | aat | aat | ad | aat |
| 隔 | ak | aak | āk | aak | aak | ak | aak |
| 矮 | ɐi | ai | ai | ai | ai | ei | ai |
| 歐 | ɐu | au | au | au | au | eo | au |
| 庵 | ɐm | am | am | am | am | em | am |
| 銀 | ɐn | an | an | an | an | en | an |
| 鶯 | ɐŋ | ang | ang | ang | ang | eng | ang |
| 急 | ɐp | ap | ap | ap | ap | eb | ap |
| 不 | ɐt | at | at | at | at | ed | at |
| 北 | ɐk | ak | ak | ak | ak | ek | ak |
| 些 | ɛ | e | e | e | e | é | e |
| 廳 | ɛŋ | eng | eng | eng | eng | éng | eng |
| 隻 | ɛk | ek | ek | ek | ek | ék | ek |
| 四 | ei | ei | ei | ei | ei | éi | ei |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 靴 | œ | oe | ö | eu | euh | ê | eu |
| 香 | œŋ | oeng | öng | eung | eung | êng | eung |
| 腳 | œk | oek | ök | euk | euk | êk | euk |
| 去 | œy | eoi | öü | eui | ui | êu | euy |
| 春 | œn | eon | ön | eun | un | ên | eun |
| 出 | œt | eot | öt | eut | ut | êd | eut |
| 多 | ɔ | o | o | o | oh | o | o |
| 開 | ɔi | oi | oi | oi | oi | oi | oi |
| 安 | ɔn | on | on | on | on | on | on |
| 方 | ɔŋ | ong | ong | ong | ong | ong | ong |
| 喝 | ɔt | ot | ot | ot | ot | od | ot |
| 惡 | ɔk | ok | ok | ok | ok | og | ok |
| 奥 | ou | ou | ou | ou | o | ou | ou |
| 衣 | i | i | i | i | i | i | i |
| 要 | iu | iu | iu | iu | iu | iu | iu |
| 兼 | im | im | im | im | im | im | im |
| 煙 | in | in | in | in | in | in | in |
| 業 | ip | ip | ip | ip | ip | ib | ip |
| 熱 | it | it | it | it | it | id | it |
| 英 | iŋ | ing | ing | ing | ing | ing | ing |
| 亦 | ik | ik | ik | ik | ik | ig | ik |
| 烏 | u | u | u | u | oo | u | u |
| 回 | ui | ui | ui | ui | ooi | ui | ui |
| 腕 | un | un | un | un | oon | un | un |
| 活 | ut | ut | ut | ut | oot | ud | ut |
| 工 | uŋ | ung | ung | ung | ung | ung | ung |
| 屋 | uk | uk | uk | uk | uk | ug | uk |
| 雨 | y | yu | ü | yu | ue | ü | ue |
| 川 | yn | yun | ün | yun | uen | ün | uen |
| 月 | yt | yut | üt | yut | uet | üt | uet |
| 唔 | m | m | m | m | m | m | m |
| 吳 | ŋ | ng | ng | ng | ng | ng | ng |

# 香港語言學學會
# 粵語拼音方案

# CANTONESE ROMANIZATION SCHEME
# THE LINGUISTIC SOCIETY OF HONG KONG

## 1. 聲母 / Onsets

| | | | |
|---|---|---|---|
| b (巴) | p (怕) | m (媽) | f (花) |
| d (打) | t (他) | n (那) | l (啦) |
| g (家) | k (卡) | ng (牙) * | h (蝦) |
| gw (瓜) | kw (誇) | w (蛙) | |
| z (渣) | c (叉) | s (沙) | j (也) |

*零聲母不用字母作標記，如"呀"只拼作 aa.
Null initial is not represented, eg."呀"is only spelt with "aa"

## 2. 韻腹 / Nuclei

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| aa (沙) | i (詩 / 星 / 識) | u (夫 / 風 / 福) | e (些 / 四) | o (疏 / 蘇) ; |
| yu (書) | oe (鋸) ; | | | |
| a (新) | eo (詢) ; | | | |

## 3. 韻尾 / Codas

| | | |
|---|---|---|
| p (濕) | t (失) | k (塞) |
| m (心) | n (新) | ng (生) |
| i (西 / 需) | u (收) | |

## 4. 鼻音單獨成韻 / Syllabic nasals

| | |
|---|---|
| m (唔) | ng (吳) |

## 5. 字調 / Tones

調號 / Tone marks: 1（夫/福） 2（虎） 3（副/霍） 4（扶） 5（婦） 6（父/服）

標調位置 / Postition of tone marks: 放在音節後 / at the end of the syllable

舉例 / Examples: fu1（夫） fu2（虎） fu3（副） fu4（扶） fu5（婦） fu6（父）

## 6. 韻母字例 / Finals illustrated with Chinese characters

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| i（詩） | ip（攝） | it（洩） | ik（識） | im（閃） | in（先） | ing（星） | | iu（消） |
| yu（書） | | | yut（雪） | | | yun（孫） | | |
| u（夫） | up | ut（闊） | uk（叔） | um | un（寬） | ung（鬆） | ui（灰） | |
| e（些） | ep | et | ek（石） | em | en | eng（鄭） | ei（四） | eu |
| | eot（摔） | | | | eon（詢） | | eoi（需） | |
| oe（鋸） | | | | oek（削） | | | oeng（商） | |
| o（疏） | | ot（喝） | ok（索） | | on（看） | ong（桑） | oi（開） | ou（蘇） |
| | ap（濕） | at（失） | ak（塞） | am（心） | an（新） | ang（笙） | ai（西） | au（收） |
| aa（沙） | aap（圾） | aat（剎） | aak（客） | aam（三） | aan（山） | aang（坑） | aai（徙） | aau（梢） |

## 7. 舉例説明

| 聲母 | 韻頭 | 韻尾 | 聲調 | 詞庫輸入 | 字 |
|---|---|---|---|---|---|
| h | oe | ng | 1 | hoeng | 香 |
| g | o | ng | 2 | gong | 港 |
| j | a | n | 4 | jan | 人 |
| h | o | k | 6 | hok | 學 |
| z | aa | p | 6 | zaap | 習 |
| p | i | ng | 3 | ping | 拼 |
| j | a | m | 1 | jam | 音 |
| d | i | k | 1 | dik | 的 |
| g | e | i | 1 | gei | 基 |
| b | u | n | 2 | bun | 本 |
| f | aa | t | 3 | faat | 法 |

## 参考文献 (1)

ここでは本稿で取り上げたローマ字表記方式ごとに代表的な辞典と教材を挙げ，教学の参考に供する。いずれも日本国内において広東語を学習するにあたり，一般の書店や中国書籍の専門店などにおいて比較的入手しやすい範囲のものに限定してある。さらに詳しく広東語の音韻体系やそれぞれのローマ字表記法について知りたい方は，張日昇、甘于恩編 **《粵方言研究書目》** 香港語言學學會 1993 年などを参照して，専著や論文に当たられたい。


【Jyutping】

香港語言學學會 **"粵語拼音方案《粵拼》"** 1993年12月

The Linguistic Society of Hong Kong *NEWSLETTER* No.17 December 1994

【千島式】

1 字 引

千島英一編著 『標準広東語同音字表』 1991年 東方書店

2 テキスト

千島英一著 『エクスプレス広東語』 1994年 白水社

千島英一著 『初めて学ぶ広東語』 1993年 語研

千島英一著 『香港広東語会話』 1989年 東方書店

【Yale 式】

1 語彙集

中嶋幹起著 『広東語基礎 1500 語』 1980年 大学書林

中嶋幹起著 『広東語基礎 6000 語』 1982年 大学書林

2 辞 典

中嶋幹起著 『広東語辞典』 1994年 大学書林

3 テキスト

辻 伸久著 『教養のための広東語』 1992年 大修館書店

中嶋幹起著 『広東四週間』 1981年 大学書林

中嶋幹起著 『実用広東語会話』 1987年 大学書林

【廣州話拼音方案】

1　字　引

| | | | |
|---|---|---|---|
| 饒秉才主編 | 《廣州音字典（普通話對照）》 | 1983年 | 廣東人民出版社 |
| | 同 | 1985年 | 香港三聯書店 |
| 周無忌、饒秉才編著 | 《廣州話標準音字匯》 | 1988年 | 商務印書館香港分館 |

2　辞　典

| | | | |
|---|---|---|---|
| 饒秉才、歐陽覺亞、周無忌編著 | 《廣州話方言詞典》 | 1981年 | 商務印書館香港分館 |

3　テキスト

廣東省對外漢語教學研究會 鄭定歐主編

《今日粤語》（上冊）1993年　（下冊）1994年　暨南大學出版社

【劉氏式】

1　字　引

| | | | |
|---|---|---|---|
| 張勵妍、張賽洋編著 | 《國音粤音索音字彙》 | 1987年 | 中華書局香港分局 |

2　辞　典

Lau, Sidney: *A Practical Cantonese-English Dictionary.* Hong Kong: The Goverment Printer, 1977

3　テキスト

Lau, Sidney: *Elementary Cantonese.* Hong Kong: The Goverment Printer, 1972, 2 vols. 1978, 5th ed.
Lau, Sidney: *Intermediate Cantonese.* Hong Kong: The Goverment Printer, 1972, 5th ed., 2 vols.
Lau, Sidney: *Advanced Cantonese.* Hong Kong: The Goverment Printer, 1975-1976, rev. ed., 2 vols.

【国際音標式】

1　字　引

| | | | |
|---|---|---|---|
| 黃錫凌著 | 《粤音韻彙　廣州標準音之研究》 | 1941年 | 中華書局香港分局 |
| | 同　重排本 | 1987年 | |
| 中華書局香港分局編 | 普通話・粤音《中華新字典》　初 版 | 1976年 | 中華書局香港分局 |
| | 第三次修訂 | 1982年 | |

2　辞　典

| | | | |
|---|---|---|---|
| 曾子凡編著 | 《廣州話・普通話口語詞對譯手冊》　第一版 | 1982年 | 香港三聯書店 |
| | 同　　増訂本　第二版 | 1991年 | |

3　文　法

| | | | |
|---|---|---|---|
| 高華年著 | 《廣州方言研究》 | 1980年 | 商務印書館香港分館 |

## 参考文献 (2)

ここでは本稿の執筆にあたって参照した文献の主なものをあげておく。


張日昇、甘于恩編　《粵方言研究書目》　1993年　香港語言學學會

亀井孝・河野六郎・千野栄一編　『言語学大辞典』　第1巻　【世界言語編】(上)　1988年　三省堂
辻　伸久執筆　「粵語」「広東語」の項目

三上吉彦・池田　巧・山口真也編著　『電脳外国語大学』　1993年　技術評論社

G.P. Kok & P.P. Huang　*Speak Cantonese*　New Haven:　Yale Univ. 1956.

Oi-kan Yue Hashimoto　*Studies in Yüe Dialects I : Phonology of Cantonese*　Cambridge Univ. Press, 1972.


## 註

(1) 正式名称と連絡先は次のとおり。

香港語言學學會　LINGUISTIC SOCIETY OF HONG KONG　G.P.O. Box 9772　Hong Kong

(2) ***Reseach on Chinese Linguistics in Hong Kong***　および　***Issues of Language in Education in Hong Kong***

(3) 張日昇、甘于恩編　《粵方言研究書目》　1993年　香港語言學學會
***A Bibliography of Yue Dialect Studies***　The Linguistic Society of Hong Kong

(4) "粵語拼音方案"の日本語での読み方は「えつごピンインほうあん」。"拼音"は日本漢字音では「へいおん」であるが，便宜上標準中国語のローマ字表記法を「ピンイン」と呼ぶ慣用に従っておく。

(5) Jyutping [ $jyt^{2}$ $p'eŋ^{55}$ ] は"粵語拼音方案"の略称"粵拼"の広東語音読み。

(6) 鄧 思穎　《粵語拼音方案專題研討會報告》
Linguistic Society of Hong Kong　***NEWSLETTER***　No.17　Desember 1994　p. 4 - 6

(7) 張 群顯 a　香港語言學學會《粵語拼音方案》的緣起、設計原則和特點 一代"粵語拼音方案工作組"報告 94.9.14 修訂　ibid. p. 26 - 33

(8) 張 群顯 b　香港語言學學會《粵語拼音方案》設計答問　ibid. p. 34 - 40

(9) 陰平調には高平調 [ 55 ] と高降調 [ 53 ] の二調値があるが，どのような場合に高平調で，どのような場合に高降調で読むのか，決定的な規則性を求めるのは困難である。このほか，広東語には複音節語中で音声レベルでの声調交替が起る「連読変調」と，声調交替により語義・文法的変化を派生させる形態音素論レベルでの「変音」があるけれども，この問題は複雑かつ多岐に渡るので，本稿では単字の読音の表記に議論を限定し，声調交替の記述や表記法については取り上げない。

(10) 広東語の口語では，中母音韻母において相補分布の隙間を埋める新たな音節が発生し，相補分布の構造が

長短母音の対立構造へと変化しつつある。詳細は本稿　4.5 Jyutping の特徴　を参照。

(11) 三省堂『言語学大辞典』第1巻【世界言語編】（上）p. 1333 - 1338　辻伸久氏執筆「広東語」の項

(12) 正確には「標準 ASCII コードには定義されていない記号」である。ちなみに標準 ASCII コードで扱える記号群はつぎのとおり。おおまかには標準的な英語キーボードから直接入力できる半角の記号群と考えてよい。

| | |
|---|---|
| アラビア数字 | 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 |
| ローマ字（大文字） | A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z |
| （小文字） | a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z |
| 評点符号 | ! , - . / : ; ? ' ( ) |
| 数学記号 | % + < > = [ ] { } |
| その他の記号 | " # $ & ~ ` ^ * @ _ \| |

張 群顯 a　3.2　ASCII 字符原則　　ibid.　p. 28 - 29 を参照。

また，これ以外の拡張部分には各国語で必要な文字セットがそれぞれに定義されて使われている。詳細は技術評論社刊『電脳外国語大学』収録の諸論などを参照。

(13) 張 群顯 a　4.1　所與掛鉤之音系特點：　　ibid.　p. 32　による。

(14) 原文では，「另外兩個短元音 [ e ] [ o ]，如在舌根韻尾 ng / k 前，…」とあり，香港言語学会では舌根韻尾 -ŋ / -k とともに現われる短母音 [ I ] [ U ] はそれぞれ [ eŋ ] [ ek ]，[ oŋ ] [ ok ] と記述し，長母音 [ iː ] [ uː ] と相補関係を成すのではなく，長母音韻母の [ ɛːŋ ] [ ɛːk ] と対立する短母音韻母だと解釈する立場を取っているようである。それゆえ「慣用に従い，それぞれを相補関係にある [ iː ] と [ uː ] とともにまとめる」と述べているのであろう。

(15) 通常の陰平調と陰上調のほかに，変調によって高平調となる「超陰平調」および高昇調となる「超陰上調」を認める説もあるが，香港言語学会では，これらは陰平調と陰上調にそれぞれ含めて特に区別を設けていない。また，陰平調の高平と高降の二つの調値については，これを分けない。その理由として，

① もしも分けるとすればいったいどちらなのかを決めるのは難しい上に，決めたところで無用な混乱を引き起こす恐れがある。声調は調類の数字だけが示されるので，個々の語の実際の調値に応じて読めばよい。

② プロジェクトチームでは，高平と高降の二つの調値を区別するのは比較的稀な音声変異であると考えるので，方案の基本形式としては分ける必要はないという立場をとる。

という二点をあげている。　張 群顯 a　3.4　音系包容性原則　ibid.　p. 30　参照。

(16) これは現行の広東語のローマ字表記法のなかでは，広東語の学習教材で広く使われている Sidny Lau（劉錫祥）方式（以下【劉氏式】と略記）だけがこの主母音をそれぞれ長 oe [ œ ] と短 u [ ø ] を表記し分けており，それを参考にしたものであろう。しかし【劉氏式】が高母音も長 oo [ uː ] と短 u [ U ] で表記し分けているにもかかわらず，Jyutping では，高母音は相補分布の帰属にあわせて記号を統一し，その長短を表記し分けない点で【劉氏式】のような一貫性をもたない。またその区別のしかたについても，異なる母音記号で表記するのではなく，e と o の前後の組み合わせの違いとしているため，これではかえって紛らわしく，混乱をきたしかねないという点も指摘されよう。

(17) 張 群顯 a　3.4　音系包容性原則　　ibid.　p. 30　参照。

(18) このほか，広州市でも「[ kœːt　kœːt ] 聲」や「打 [œːt] 」といった言い方がごく普通に聞かれるとのことである。　鄧 思穎　《粤語拼音方案專題研討會報告》　ibid.　p. 5 - 6.

(19) 日本放送出版協会　『NHK ラジオ中国語講座テキスト』　1992 年 12 月号　～　1993 年 3 月号
同　1993 年 12 月号　～　1994 年 3 月号

(20) 千島先生によれば，英語や中国語の標準語を学んだことのある日本人学習者が学びやすいようにという点を最も重視して設計されたとのことである（談）。

(21) Yale 式はアメリカの Yale 大学で広東語教授用に作られたローマ字表記法であり，香港における外国人向

けの広東語教育でよく使われているため，日本でも Yale 式を採用する教科書や辞典が比較的多い。特色は声調を音節主母音の上に diacritical marks を付けて表示することで，特に低声調を表わすには主母音の後に h を挿入する。声調表記が視覚的なのは学習効果を高めるのに優れるが，低声調の表記のために挿入される h が綴りを繁雑にしていることも否定できない。また，文字 h は逆に "high" を連想してしまうという弊害もある。

Yale 式の声調表記

| | 下降 | 上昇 | 平板 | 促音 |
|---|---|---|---|---|
| 高 | 1 (à / ā)<br>[53 / 55] | 2 (á)<br>[35] | | 1 (āp)<br>[5] |
| 中 | | | 3 (a)<br>[33] | 3 (aap)<br>[33 / 3] |
| 低 | 4 (àh)<br>[21] | 5 (áh)<br>[13] | 6 (ah)<br>[22] | 6 (ahp)<br>[2] |

また，安託集團 AtoZ Lab は Apple 社のパーソナルコンピュータ Macintosh の中国語システム上で，広東語の入力と編集ができる ImputMethod を開発・発売している企業である。パソコン上での広東語ローマ字入力の一例として，同社の提供するソフトウェア「中文 Script」および「中文 Office」などで使われているローマ字表記を参考として掲げておいた。このローマ字表記法は民間で使われているいわゆる「香港通俗式」の綴り方に近い。